

法正尻遺跡展2

20周年記念企画

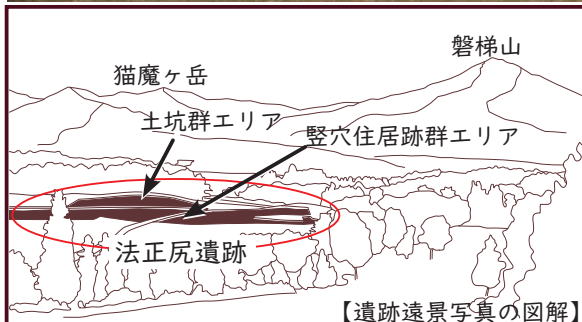
見どころ
解説

福島県文化財センター白河館（まほろん）
開催期間 2021年4月24日（土）～
6月20日（日）
編集・発行 （公財）福島県文化振興財団
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
TEL:0248-21-0700
FAX:0248-21-1075

法正尻遺跡について



【遺跡遠景写真】



- 時代 ▶ 縄文時代中期（約5500年～4400年前）
- 面積 ▶ 調査は21,000㎡（遺跡の範囲は推定約75,000㎡）
- 遺構※1 ▶ 竪穴住居跡129軒（内1軒は平安時代）、
土坑759基、土器埋設遺構26基ほか
- 遺物※2 ▶ 土器片約260,000点、石器類約3,350点
土製品及び石製品約170点
- 国重要文化財 ▶ 855点

※1 地面に残された過去の人々の活動の痕跡 ※2 過去の人々がつくり、使った道具類など



【333号土坑土器出土状況】

縄文人の移動と交流 ―土器編―



今でも、その時々流行があったり、地域ごとに方言や独自の文化などがあるように、縄文土器にもつくられた時期や地域によって、異なる特徴があらわれます。それらの土器を観察することで、どの時期につくられたのか、どの地域と交流があったのかなど、様々なことを知ることができます。

法正尻遺跡から出土した土器からは、どのようなことが読み取れるのでしょうか。法正尻遺跡は東北地方南部の大木式土器圏に位置します。しかし、遺跡からは、大木式土器（地元）の特徴をもった土器だけでなく、様々な地域の特徴をもった土器も出土します。縄文時代中期の初め頃は、関東地方の特徴を持つ土器も多くみられます。その後は、北陸地方の特徴を持つ土器や北陸地方と東北地方南部（地元）の特徴を併せ持つ土器などが多くみられることから、中期初めとその後では、交流の様子に変化があったのかもしれない。

王冠のような口縁部と刻みがついて
いる縄のような渦巻きが醸し出す
圧倒的王者感！



①

566号土坑出土土器

北陸地方の特徴をもつ土器

①～③

器面全体が隆線※1と沈線※2で埋め尽くされるのが特徴です。①と②は、刻みのついた隆線は、富山県や石川県あたりに分布する上山田・天神山式土器の影響かと思われます。

※1 隆々と盛り上がった線 ※2 粘土の上に棒で引いた線

口縁部につくニワトリのトサカのような飾りは新潟方面の火焰型土器と共通していますが、胴部に縄目の文様がつけられているなど、東北ナイズされた土器です。



③

333号土坑出土土器

かえん
火炎型（馬高式）
土器圏

かみやまだ
上山田・
天神山式土器圏

かつか
勝坂式土器圏

あらまき
新巻・焼町土器圏

だいぎ
大木式土器圏

法正尻遺跡

あたまだい
阿玉台式土器圏



②

327号土坑出土土器

文様で埋め尽くされて
て…ゴージャス♪

キラキラ系土器



⑨

327号土坑出土土器

口縁部の窓枠状の区画と隆帯に沿うように施される押し引き文※3が特徴のひとつです。

※3 工具の押し引きでつける文様

地元の土器（大木式土器）

④～⑥

東北地方南部に分布する土器群です。地文として、縄目の文様が施され、その上に沈線や隆線で文様が加えられます。



④

333号土坑出土土器



⑤

552号土坑出土土器

時期によって特徴が異なりますが、④・⑤がつくられた約5000年前（大木8a式期）には、口縁部に立体的な装飾がついたり、渦巻きやクランク状の文様がついた土器が多く見られます。

口縁部の
シルエットが
そろばんの玉みたい
だなぁ。



⑥

327号土坑出土土器

関東地方の特徴をもつ土器（阿玉台式土器）

⑦～⑨

阿玉台式土器は粘土の中に金色の雲母片を混ぜているので、土器の表面をみるとキラキラしています。法正尻遺跡から出土した阿玉台式土器の特徴をもつ土器にもキラキラしているものがあります。

縄目やY字の文様が
つくのは東北地方
南部のアレンジで
しょうか？



⑧

53号住居跡出土土器

製作時の輪積み
の跡を残したまま
デザインにしてい
ます。
その上に、指を
押し付けた文様を
つけています。



⑦

遺構外出土土器

何指で押したの
だろうか…？
人差し指？親指？

【501号土坑出土の
ヒスイ製大珠の展開写真】

(原寸大)



縄文人の移動と交流 ―石器・石製品編―



法正尻遺跡からは、原産地域が限定されている石材でつくられた石器・石製品が出土しています。

それらは、わたしたちに縄文人の移動や交流のネットワークを知る手がかりを与えてくれます。

ヒスイ製大珠

縄文時代の遺跡から出土するヒスイは、ほぼ新潟県糸魚川地区産と考えられています。

ヒスイ製大珠は、誰もが身につけることができるものではなく、特別なムラや特別な人物しかもつことができなかったものと考えられます。

法正尻遺跡では、お墓と考えられる隅丸長方形の穴(501号土坑)の底面から、出土しています。

特別な人物の副葬品だったのかもしれない。



長さ▶85mm
幅▶31mm
厚さ▶14mm
重さ▶97.5g

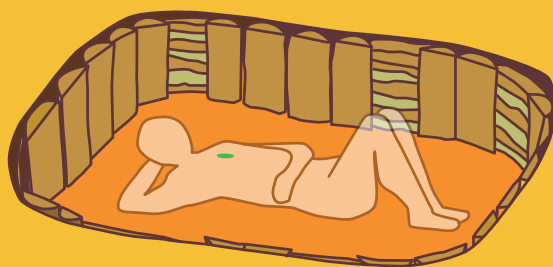
【501号土坑】

長軸▶200cm(残存長)
短軸▶125cm
深さ▶30cm(残存高)

土坑のまわりには、このような溝や小さな穴が断続してめぐっています。右の図に示したように、木の板が設置されていた可能性があります。



【501号土坑埋葬時推定図】



黒曜石

黒曜石は天然ガラスのひとつで、日本列島のなかでも特定の産地でしか採れない貴重な石です。

法正尻遺跡からは、栃木県高原山などで産出した黒曜石が出土しています。

【黒曜石製剥片】



珪質頁岩

法正尻遺跡から出土した石匙(ナイフの一種)・石篋(スクレイパーの一種)のほとんどは、珪質頁岩という石材でできています。この石材の中でもチョコレート色のものは、山形県最上川流域に多く産出します。

【珪質頁岩製剥片】

